

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(1階フロア)

事業所番号	2774002899		
法人名	株式会社 楽		
事業所名	グループホームらく楽		
所在地	豊中市稲津町3丁目5番5号		
自己評価作成日	平成30年3月30日	評価結果市町村受理日	平成30年5月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成30年4月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・職員同士が入居者の情報を共有して、チームでの介護支援を行なえるように心がけている。 ・お誕生会等の行事の際は、1階、2階入居者が集えるように計画し、実行している。 ・地域での落語会、イベントなどがある場合は出かけ、地域との交流を支援している。 ・天候の良い日には散歩等外出の機会を持ち、季節を感じて頂けるようにしている。 ・身体の変化に合わせて食事の形態を変え、その人に合った食事を提供している。 ・水分摂取の重要性を認識し、可能な限り入居者の好みに合わせた飲み物を提供して水分摂取量を確保している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>元アパートを改修し、開設後12年を経過しているがホームは清潔に保たれている。数年前に就任した管理者はこの間に書類関係を鍵のかかる戸棚への書類と職員は何時でも自由に出し入れできる棚への書類に分けて管理し、全ての書類を見直し、職員がチームで利用者との信頼関係を基にした介護サービスにつながるようリーダーシップを発揮している。食材の調達や調理は職員が行い、家庭的な出来立ての料理を提供し、利用者は調理の音や匂い等を感じながら笑顔で職員と一緒に食事している風景はグループホーム本来の姿である。職員負担の軽減も考慮し、昨年末に訪問看護ステーションとの医療連携を築き、協力医療機関や家族と繰り返し相談しながら看取りの経験を積み重ねており、利用者の重度化に対するホームの体制整備もより進化している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果 (1階フロア)

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・らく楽の理念に基づいて管理者は職員と理念を共有できる様、朝礼時や会議にて訓示をしたり、職員個別に指導を行っている。	「愛します まもります」という簡易で分かりやすい独自の理念を掲げ、並びに年度目標や毎月の目標も合わせて掲示し、職員は日々の行動指針とし、職員皆がチームで実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・自治会の会合に参加するとともに、利用者を地域の行事や公民館での手芸教室、図書館での映画鑑賞や、お寺での学生落語会に参加するように努めている。	自治会に加入し地域の地蔵盆や地域の夏祭り、公民館での手芸教室、小学校での展示等には参加している。職員は施設近隣の川の清掃活動や消防署主催の災害時研修に定期的に参加し、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・運営推進会議で利用者の日頃の様子を報告し、認知症の実態を理解されるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議において、利用者の日常の様子や、入退院の有無、事故報告等を行い、構成員の意見を求め、運営に反映しサービス向上に努めている。	自治会・家族・地域包括支援センター・大家・介護相談員2名等・民生委員に参加を呼びかけ、年6回開催している。欠席者もあるが参加者と質疑応答の時間を作り、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・生活保護利用者が多いため、福祉事務所ケースワーカーと連絡を取り、利用者の情報を共有するように努めている。また運営上疑問があれば、市高齢施策課に確認し、利用者の不利益にならない様配慮している。	生活保護の方が多く、市の福祉事務所には頻繁に出向き、助言を得ている。運営に関することも高齢施策課担当者と話し合い、市の情報・動向・助言等を得ている。地域包括支援センター職員とは運営推進会議を通じ、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束について適宜職員に研修を行い、職員と介護支援方法を検討し、共有する事で、身体拘束を行わないケアを実践できるようにしている。	身体拘束ゼロの手引きを利用し、定期的に研修を実施し職員の共有を図っている。管理者は職員との意思疎通を図り、チームでの介護支援を大切にしている。玄関は施錠しているが利用者のシグナルには対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・管理者、職員は適宜社内研修や外部研修に参加し、虐待防止意識を高めるようにしている。また介護方法によって虐待になりうる事も職員に周知する様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	・管理者は権利擁護の知識を職員と共有できる様、適宜社内研修や朝礼時、会議での訓示を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時には十分な時間を取って説明に努めている。また質問等があればその都度回答し、疑問を解消して契約に理解、納得される様を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・玄関に利用者・家族の苦情箱を設置している。また利用者、家族とコミュニケーションの中から要望・意見を引き出せる様に努め、運営推進会議で報告する様に努めている。	家族の訪問時には利用者の状況を報告し、意見や希望等を聞き、家族との会話が難しい方は本人本位に把握し、運営に反映するようにしている。家族等は苦情等を言い難いことを職員が共有し、些細なことでも把握したことは苦情処理簿を使い、改善を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・管理者は、月1回の全体会議での意見や、就業中に出てくる意見などを、重要度に応じ適宜代表者に報告している。また職員が意見を出しやすい職場環境が作れるように努めている。	月1回、職員会議を開催し、職員の要望等を聞き、働きやすい環境として重度化に対する訪問看護ステーションとの医療連携の構築や人員補充等の課題は運営者に報告し、改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職員の自己評価などにより、意識の把握に努め、悩みや要望などを聴き取り、改善すべきところは実行し、職員の向上心や意欲の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・個人のスキルに応じて適時外部研修を受けられるように参加費や交通費を支給している。また社内研修計画を作成し、それに基づいて社内研修を年6回は行えるように支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・事業者連絡会や、地域ネットワーク会議に積極的に参加し、同業者との交流の中から情報収集、意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入所時インタビューでは、本人の希望や不安などの情報収集を行い、要望、不安、問題点を確認して、本人が納得と安心感が持てるような関係づくりが構築できる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入所時には家族の要望、不安について傾聴し、要望や不安を解決できる提案を行う事で、信頼関係を構築する様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入所時の課題分析から、本人、家族がまず最初に必要としている支援を把握し、安心・安全でその人らしい生活が送れるようにサービス計画を立てる様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・職員は利用者を自分の家族のように対応するように心がけ、らく楽での生活は、利用者にとって自宅生活の延長として捉える様に意識して関係する様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・職員は家族の思いや要望に耳を傾けて寄り添う気持ちを持ち、利用者と家族を支える関係を作り上げる様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・本人の意向を傾聴し、大切にされている事を継続できるような支援ができるように努めている。	知人等の訪問は無くなったが過去の趣味を通じた図書館での映画鑑賞や地域の手芸教室等の馴染みの場所支援をしている。フェースシート等の書類を大幅に改善し、馴染みの関係継続を大切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・リビングの席は気の合った者同士で過ごせる様に配慮している。同フロアだけでなく、他フロアの利用者が交流できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・病院への見舞いや、他施設に行かれた場合でも、要望があれば相談や支援を行うように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々の日常会話の中から、利用者の意向や希望を把握するように努め、職員が共有して介護支援を行ない、本人にとって快適な生活が提供できるように努めている。	前回の外部評価時に課題として掲げた入所時のフェースシートに生活歴等の記録不足は書類を大幅に見直し、改善している。困難な場合は利用者にチームで寄り添うことで暮らし方の希望を把握し、出来るだけ思いに沿った支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・本人からの聞き取りや、日常会話の中から把握しようとはするが、簡単には行かない場合もあり、家族や前担当ケアマネジャーから可能な限り情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日中、夜間の様子を申し送りやカンファレンス、職員からの聞き取りによって把握するように努めている。把握した現状は介護計画に反映するよう心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・モニタリングやカンファレンスによって、本人や職員の意向や意見、提案を踏まえて、ニーズを把握して短期目標、長期目標を設定し、現状にあった介護計画を作成している。	モニタリング・カンファレンス・サービス担当者会議を定期的で開催し、利用者の現状に合った介護計画作成につなげている。計画の見直しは6ヶ月ごとに行っているが急変や入退院時には即変更の対応をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・利用者の個人チェック表に食事量や水分量、バイタル、排泄などを記録し、介護記録に利用者の様子を記録して職員が閲覧し印を押して情報を共有し実践している。場合によって介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われなない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・通院や公的機関への申請の代行等、本人、家族が希望する場合、柔軟な支援を行なうように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・近くの公園への散歩や、図書館で行われる映画上映会 お寺での学生落語会に参加、神社への初詣や花見など、地域の資源を活用してバラエティのある支援が行えるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人、家族の同意の元、かかりつけ医と契約し、月2回の定期往診と体調不良時には臨時往診や電話での指示で対応している。また他医療機関への通院指示があれば対応している。また往診時には日々の様子を報告している。	協力医療機関の内科医の往診を月2回受けている。皮膚科・泌尿科・精神科等の専門医への通院も大半の方は事業者が多目的に支援している。歯科医・歯科衛生士は毎週2回来訪し、必要に応じて治療や口腔ケアを受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・訪問看護師と契約して、週1回の健康管理や、体調不良時に連絡して、指示やかかりつけ医へ連絡する等の対応をしている。また相談や、助言を受けて利用者の体調管理の支援を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	・入院時にはサマリー提供や、入院中の様子を確認するよう面会に行っている。退院時は看護師や退院時サマリーによって情報を得、退院後の生活が滞りなく行えるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化した場合における対応の指針を整備し、本人や家族の意向を確認して、当事業所で出来る事を説明し同意を得ている。また訪問看護師、かかりつけ医とも連携して対応できる様取り組んでいる。	看取りの対応指針書を作成し、各家族と早い段階から話し合い、同意を得ている。昨年末に訪問看護ステーションとの医療連携を構築し、職員の負担も減らし、この半年で4人の看取り体験を積み重ね、利用者にとって良い最期を迎えられるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急時対応マニュアルを整備し、職員が対応できるようにしている。また急変時や事故発生時には管理者に直ちに報告し、指示を仰ぐように指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・毎年消防本部が行う防災研修を受講して、防災意識を高めるようにしている。避難訓練は地域住民の参加、協力を要請し実行できるように努めている。	年2回、避難誘導訓練を実施している。消防署主催の防災研修に参加し、職員皆の共有を図っている。最低限の備蓄は確保している。災害時を想定した検討委員会を整備し、より安全な施設作りを目下、検討中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・声かけの言葉使いは、親しさと砕けすぎを混同し無いよう、利用者の尊厳に考慮しながら行うよう努めている。	職員は利用者に対する言葉使い等で気づいた時は互いに注意し合うようにしている。先輩である利用者を尊重し、出来るだけチームでの介護支援を行うようにし、利用者との信頼関係を築くような言葉使いを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・日常生活において、個々に合わせて声かけを工夫し、自己選択が出来るように配慮している。また思いや意向を確認するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・利用者一人一人のペースに合わせ、職員の都合を優先した介護支援を行わない様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・自分で判断できる利用者には、自分でできるように支援している。自己判断が困難な利用者でも職員の都合で考えるのではなく、その人の立場に立って考えて支援を行う様に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・仲の良い利用者同士で食事をとるよう配慮している。玉ねぎの皮むきや、後片付け、お盆を拭く等できる事は手伝って頂くように役割分担をして、行うように努めている。	献立・食材の調達を職員が行い、調理専門の職員を配置し、出来立ての料理を提供している。利用者は音や匂いを感じながら、出来る範囲で手伝い、職員と一緒に楽しく食事しているグループホーム本来の風景がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・水分摂取は、好みの飲み物の提供や、十分な声かけで必要量が確保できる様に努めている。食事量は体調に配慮しながら提供し、個々に合った食事形態で摂取して頂くように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後口腔ケアを実施し、介助が必要な利用者には支援している。月2回訪問歯科往診にて口腔ケア、義歯のケア等を行っている、場合によってはえん下訓練などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・利用者それぞれに合わせた排泄パターンでトイレでの排泄を支援している。見守りが必要の場合は、尊厳に配慮した対応で行う様に努めている。	現状布パンツで過ごせる方はいないが排泄パターンを把握し、日中はトイレに誘導し、自立排泄につなげている。夜間の巡回は睡眠妨害に配慮している。便秘予防として水分補給や腹部マッサージを大切に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・排泄状況に応じて便剤の調整をかりつけ医と相談しながら行なう、排便支援を行っている。水分摂取の促しや、腹部マッサージを行うなどの対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・入浴日は決まっているが、要望により時間をずらしたりするなどの対応をしている。入浴を拒否した場合、時間を空け、本人のタイミングで入浴して頂くように声かけしている。	週2回、個浴での入浴が出来るように支援しているが体調に合わせてシャワー浴や足浴等も行っている。入浴を拒否する方には時間を置いたり、工夫して入浴につなげている。ゆず湯やしょうぶ湯等も実施し、楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・個人の睡眠パターンを把握し、快適に入眠されるように配慮している。昼食後に午後睡を取り、休まれるようにしている。就寝時間についても個人の生活習慣に基づいて、臥床して頂くよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・個人別の薬剤情報をファイルし、職員が閲覧できる様にしている。服薬で副作用等のおそれがある場合には出ていないか様観している。誤薬が起らない様に注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・日常生活において、食事の下膳や洗濯物を干す、たたむ、手すりを拭く、モップをかけるなど、役割を持って頂けるよう心がけている。月1回は行事を行い、利用者全員が楽しめるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・入居者の要望に応じて散歩や、家族との外出、図書館での映画鑑賞、地域の手芸教室やお寺での落語会、季節の地域行事に参加できるように支援している。	隣にある公園での散歩や趣味に沿った図書館での映画鑑賞・地域の手芸教室・寺での落語会等及び季節の花見等に職員と一緒に掛けている。家族との外出も推奨している。	2階の利用者も介護度が高くなり、エレベーターが無いので職員は日常的な散歩等が難しく、不十分である。法人全体で改善に向け、話し合うことを望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・家族より預かった現金を管理し、買い物代行している時もあるが、希望に応じてお金をお渡ししており、買い物時本人の財布から支払って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・入居者の希望に応じて、電話や手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・毎月季節感を感じる壁絵を作成している。共有空間の室温管理は気をつけるように努め、居心地よく過ごされるようにしている。	開設12年を経過しているが共用空間の室温管理は適切に行い、清潔に保たれている。居間兼食堂はゆったりしており、机を適切に配置している。壁には嚙下体操の絵図や季節を感じる貼り絵及び行事の写真等が飾られ、居心地良く過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・階段の踊り場に椅子を置き、一人で過ごせる様にしている。また縁側を作り、利用者同士の語らいの場を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・個人の馴染みのある家具調度品を持ち込んで頂いている。室内の家具類の配置についても、本人や家族の意向を尊重するように努めている。	使い慣れたタンスや置物及びテレビ等を持ち込み、馴染みの家族写真等を飾り、穏やかに過ごせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・要所に手すりを設置し、安全に移動や立位が取れるようにしている。本人ができる事に配慮しながら、自立した生活が送れるように心がけている。		